

ヨシイちゃんのひとりごと

辻井喬著 新祖国論を読む

今日八月二十九日、辻井喬著「新祖国論」と題し「なげいま、反グローバリズムなのか」と添書のある本を求め読み出した。

辻井喬氏の本名は堤清二氏、1927年生まれ、父は西武鉄道の創業者で衆議院議長も勤めた政治家堤康次郎氏、東大経済学部卒業、在学中不破哲二氏らと共に日本共産党東大細胞に属したこともある。後西武百貨店に入り、セゾングループの総帥となり実業家で、小説家、詩人として活躍多くの著作がある。

私共は今もファミマ加盟店であるが参加当時(1985)「セゾングループ」の下に有った。



参加を決めた。これはその指導者(堤清二氏)のことを知りたいたい、同氏の幾つかの小説詩や著作を読んだ。大資本家で保守政治家の父を持つながら反体制側に身を置き、更に後その立つ位置を企業経営者に変わるにいたる「慟哭」が理解でき彼は「異邦人」でないと思った。

私も、家庭環境、思想的「揺れ」といつ悩みを抱えた書写時代が有ったから、この小説に自らを重ね、詩にも共感を覚えた。この本は昨晩に読み出したばかりだ。私は今も24時間年中無休の「コンビニ」稼業を22年間続け、寝むる時間を節約し、競合店に負けるなど！走り続けている。その事業に参加を勧めた当時の沖社長、市原穰氏を責めるつもりは無い。決めたのは「ヨシイちゃん」であるから。

参加を決めた。これはその指導者(堤清二氏)のことを知りたいたい、同氏の幾つかの小説詩や著作を読んだ。大資本家で保守政治家の父を持つながら反体制側に身を置き、更に後その立つ位置を企業経営者に変わるにいたる「慟哭」が理解でき彼は「異邦人」でないと思った。

私も、家庭環境、思想的「揺れ」といつ悩みを抱えた書写時代が有ったから、この小説に自らを重ね、詩にも共感を覚えた。この本は昨晩に読み出したばかりだ。私は今も24時間年中無休の「コンビニ」稼業を22年間続け、寝むる時間を節約し、競合店に負けるなど！走り続けている。その事業に参加を勧めた当時の沖社長、市原穰氏を責めるつもりは無い。決めたのは「ヨシイちゃん」であるから。

参加を決めた。これはその指導者(堤清二氏)のことを知りたいたい、同氏の幾つかの小説詩や著作を読んだ。大資本家で保守政治家の父を持つながら反体制側に身を置き、更に後その立つ位置を企業経営者に変わるにいたる「慟哭」が理解でき彼は「異邦人」でないと思った。

私も、家庭環境、思想的「揺れ」といつ悩みを抱えた書写時代が有ったから、この小説に自らを重ね、詩にも共感を覚えた。この本は昨晩に読み出したばかりだ。私は今も24時間年中無休の「コンビニ」稼業を22年間続け、寝むる時間を節約し、競合店に負けるなど！走り続けている。その事業に参加を勧めた当時の沖社長、市原穰氏を責めるつもりは無い。決めたのは「ヨシイちゃん」であるから。

参加を決めた。これはその指導者(堤清二氏)のことを知りたいたい、同氏の幾つかの小説詩や著作を読んだ。大資本家で保守政治家の父を持つながら反体制側に身を置き、更に後その立つ位置を企業経営者に変わるにいたる「慟哭」が理解でき彼は「異邦人」でないと思った。

私も、家庭環境、思想的「揺れ」といつ悩みを抱えた書写時代が有ったから、この小説に自らを重ね、詩にも共感を覚えた。この本は昨晩に読み出したばかりだ。私は今も24時間年中無休の「コンビニ」稼業を22年間続け、寝むる時間を節約し、競合店に負けるなど！走り続けている。その事業に参加を勧めた当時の沖社長、市原穰氏を責めるつもりは無い。決めたのは「ヨシイちゃん」であるから。

参加を決めた。これはその指導者(堤清二氏)のことを知りたいたい、同氏の幾つかの小説詩や著作を読んだ。大資本家で保守政治家の父を持つながら反体制側に身を置き、更に後その立つ位置を企業経営者に変わるにいたる「慟哭」が理解でき彼は「異邦人」でないと思った。

私も、家庭環境、思想的「揺れ」といつ悩みを抱えた書写時代が有ったから、この小説に自らを重ね、詩にも共感を覚えた。この本は昨晩に読み出したばかりだ。私は今も24時間年中無休の「コンビニ」稼業を22年間続け、寝むる時間を節約し、競合店に負けるなど！走り続けている。その事業に参加を勧めた当時の沖社長、市原穰氏を責めるつもりは無い。決めたのは「ヨシイちゃん」であるから。

AとBとOCRとお役所

A・Bと書いても血液型のことではない。A4版とかB5版という紙の大きさのこと。もう数年前から、それまでバラバラだった紙の大きさを「お役所はA4版」に統一した。税務署の申告書も社会保険の届けもそれに従って変った。時代についていくつもりは無い。その後の時代についていく形では無い。当然で遅すぎるくらいと大賛成である。この当コンピユータ化の結果、提出用紙が「A4・厚紙」の「OCR用」が使われようになった。「OCR」とは人が書いた文字を機械で読み取る装置。書類には「機械で読み取りますので折らないで下さい」と注意が書いてあり、返信用に角2号封筒が(A4紙がスツポリ入る)切手を貼らずに入っている。以前は定型の封筒に三つ

折か四つ折で入れ送り「郵送料は80円」だった。それが、それ以来(OCR以後)「定型外になり」一切手1200円「貼る。実に50%高くなった。しかたなしにそうして出したが、「役所の都合で定型外は困る。OCRが国の方針なら郵送物をA4・角2まで定型にして欲しい。郵政省(当時)と話し合いされよ」と手紙を添えた。何もないそれを続けているが「ナシのつぶても電話も厚生省も同じ穴のムジナだった」と。OCRで手間が省けて、更に郵便料金が50%実質値上げで「国家収入増」になるから知らんプリシヨルンや!。自分らが「OCR」で手間はばきして、はつきり見え難いやりかたで国家収入を増やすこのコソサは官僚や政治家に常等手段で「お茶の子さいさい」なのだと知る。そんな細かいこと言わなくてもこの批判も有り。400円の純利益を上げるには100円のお金をどれだけ売ればと考えるコンビニ仕事をしたいと、「コマイ人間」になる。我にして残念!

コンビニ 明るいところ に人は来る

このページで辻井喬氏「新祖国論」を書いていてふとコンビニ開店前を思い出した。夜、京阪七条駅を降りると七条通は真っ暗人も歩いていない。こんな場所でも「コンビニ」は成り立つのか?と不安になった。ファミマに参加を勧めにきていた市原氏に問う。夜は人が歩いてマヘンで?と。彼は「灯り」を点ければ人は寄ってくるのです。その一年半後「ファミマ」を開業。どこにこんな人が居たのか驚く程。「ワ」開いている店が会って助かった」と感謝され、道り甲斐を感じた。大晦日、店内が祇園さんの「オケラ参り」帰りの人が溢れた。祇園から七条までコンビニも夜開店しているお店は一軒も無かった。

明るいところが増えすぎた。交差点でトンナン・シャーパー四方をみる。必ずコンビニの看板が見られる。数年前までは酒屋の看板だったがそれは消えた。昨日まであったコンビニが占めて、看板が違つ店が代わりになる。人々はそれを何とも思わず新しい店で買物をされる。レジで

その近くの家を訪ねても「判りません」と答える経営者の店に。潰れては(潰しては)建てる(開店)する。それをスクラップビルドと言つコンビニ本部も有るらしい。コンビニ同士の勝ち負けの競争時代。あつちこつちに灯りが増えても「一升の枀には一升五合は入らない」は真理だが、ローバル競争は今このところ終る様子はない。コンビニという業態が「善」であった時代から仕事をしていくとそれが「悪」になって欲しくない。小さい声でそれが集西楽サカタニを開いた理姿だと咳く。

困つたお忘れ物。ファミマのレジでお勘定をされ、買った商品を「ちよつと用事を思い出した預つ」として、直ぐ戻ささい」と言われ、カウンター後に置き預る。待てども戻つた来られない。中には「要冷蔵」がある。ストックの冷蔵庫に入れ、バイトが交代の際引継いで行く。その内に品物の賞味期限が切れてしまつ。お代金は載っている。所有者はあずけられたお客様。バイトにお顔やなど特長を聞いても判らない。こんな場合非常に悩む。お預りする際電話番号をきくとした。店頭にお忘れ物も多い。

「カラオケ」は設備が時代遅れに今後はなり貸し小部屋としてご利用ください。防音設備あり、音楽練習には最適です。お気軽にご相談下さい。

京阪七条交差点をめぐる 京阪電車開通 (1) 沖中忠順 (おきなかつたより)



京阪電車は97年前、1910(明治43)年4月15日、大阪天満橋・京都五条間46.6kmを第一挙に開業した。最初の計画では木津・宇治川合流点から京津道と沿って、旧千本通を北上するものであったが、両川整備が成り、宇治川右岸沿いに中書島へ、そこから大和街道沿いの現在の経路へと変更された。

京都市内に入り本町通沿いは民家密集で用地買収が困難となつたが、京都府から整備された鴨川と疎水を分ける築堤、上に線路建設が認められ、これによって五条迄の用地が確保された。五条大橋架け替え前、五條駅の大改札口が疎水の板張りだった。

今月号から六月「ギャラリー集」で「京阪特急展」と「朝粥会」でお話をして、ださつた沖中忠順様のご協力で、「京阪七条交差点をめぐる」の連載が始まりました。永年にお集めなつた貴重な写真やお集めなつた資料で、七条あたりの昔の光景がよみがえることとしよう。ご期待下さい。



沖中忠順著書1890円

上記の本ご購入の方取寄せいたします。

成就院(清水寺)の 庭園鑑賞会に 参加して

8月の始め「わしやけど、わかるか?」と1本の電話がかかってきました。「わしさんなんて知りませんが」と答えたかつたので、店にかかってきた電話だったので、お客さんだつたらいけないし一応取りあえず愛想もよく「はい・・」と返事をしたものの話の途中でやつと声と顔が結びびつきました。

私は店にかかってきた電話と自宅にかかってきた電話とは全く正反対になつてしまつて悪いクセがあるのです。

8月12日(日)集西楽サカタの特別企画として清水寺成就院(じょうじゆいん)の庭園と通常は非公開の大仏足石の鑑賞会があるので一緒に参加しないかという数枝さんの電話だつたのです。前々から参加したいとおもつていたところで、すぐOKの返事をしました。そして同じあ(あぢよぼ)(注)の仲間であつた銀河鉄道の村上さんにも声をかけました。すぐ彼もOKの返事、私にしてみれば40年程前の中学校(四国・松山)の修学旅行の気がして、当日は真夏の太陽の下、清水寺仁王門前に、例の「わしやけど」数枝さんが一番、私が2番という高順位到着しました。そして次々と20人近くの人数が集まりました。



夏休みの期間中ということもあつて、観光客も多く、さすが京都だと思ひました。今回は「大仏足石」興味がありました。足の裏に少しでも堅いところがあれば体や内臓のゆがみと聞いていたので、私は毎日顔を洗つて歯をみがくのと同じ習慣で自分の足をマッサージしてつぼを押ししているのです。

15m上から下をのぞいたところに4mの足石が彫刻されてたのです。高所恐怖症の私は、足はガクガク、顔は冷汗でびっしょりになり、

30人も入れば一杯になり、狭くて暗い場所です。集西楽での食事は楽しかつたです。お寿司はファミマの弁当かと思つていたら高級寿司弁当でした。これには驚いて発泡酒好きな私でもエビスビールで乾杯。暑い夏、大仏足石、庭園を見学した後、冷えたビールをグイと飲んで、幸せな気分になれました。次回もよろしく。

(注)あ アチヨボは、当社が経営支援していた60歳以上の方々で運営していた「飲み屋」です。ご投稿の磯部さんとお名前のお出た村上さんは常連客。数枝さんはそのスタッフでした。友人の宇多信店長の死とコンビ二競争激化が重なり支援不能になりアエナク閉店しました。残念の極みです。酒谷



高台寺山・音羽山の二山を借景にした成就院の庭園

ギャラリーカフェ 集(しゅう)

ファミマの弁当持込可。大型テレビをみながらお食事出来る。コーヒーなど2000円

楽々ホール

気軽にお使いください!
・ご町内の会合や相談会
・お仕事のお打ち合わせ
・教室、同窓会や勉強会
・コンサート、ライブ
色々なお使い方が出来ます。

ファミマの商品は持込でき、お酒は本職酒屋で、売るほどあり。グラス、皿、小さな調理室有り

(注) 法に反すること・宗教布教、政党主催会合は不可

有料ですが
テーブル、椅子、舞台、音響設備・ピアノ、有り
お問合集西楽サカタ二
561-7974 酒谷宗男

酒屋で生きて 生かされて

第二十話・ 開店と祖母の死

昭和49年10月1日・向かいから現在地に移転、社名をも(株)サカタニに代え店舗部分を改装しワインと洋酒中心に、輸入菓子や土産物まで並べスタートしました。(土産物は後撤退)一週間の開店セールは大々的に折り込みチラシとダイレクトでお知らせしました。反響は大きく毎日てんでこ舞い、売上は予定目標を大きく越えられました。

開店4日目、祖母が知合いの方の葬儀のお手伝いに行く途中に立ち寄り「沢山お客さんが来てくれてよかったです。エエ店になった」とよろこびの笑顔を残してアタフタと帰りました。

売出しが終り、ヤット手が空いた9日の夕暮れ、祖母が住む吉田の天理教会を訪ねました。

1時間余り話をしておき、1時間お金の無いしこんなものしかお祝いにやれぬと庭前、座敷、お祝いを各一本呉れました。「おおきに帰ります」と出ようとすると「その筈やらは見るとこだけ掃除するためや無いで、心のホコリもそれで綺麗におしや」と言いました。

それが祖母の最期の言葉になるとは思いもよらなかった。判った判った」と言ってお別れしました。

その翌日祖母は宇治の教会の「大祭」に上級教会長として参加していました。御参り下さった

方々に終わりの挨拶をして「今日はお参りお返し」といふ参拝の方にお礼の頭を下げるそのお辞儀の頭を上げることなく息を引き取りました。10月10日午後1時過ぎ、83歳大往生でした。

(この部分前に書き重複有り) 大正2年本町六丁目一番地で祖父喜一郎と酒屋を始め、同9年に現在地に移転、祖父が58歳で亡くなった後は父一郎を支え、商売の中心にあり、孫達を育ててくれた祖母です。

破産状態で「家」も「借家」も無くなる危機を19年もかかったが何とか乗り越えた孫が、自分と夫祖父と共に酒屋をしていた元

第32回・朝粥食べて、 おしゃべり会・報告

第32回「朝粥会」(略称)は、定例日第3日曜定刻9時に始まった。

三年余前が初回だった当時暫くは見込みで「お粥」をつくり、多すぎて「冷凍」にして朝食で半月かかって食べた。「お米」の捨てられない戦中派の性

最近では予約でご参加数が読めて有りがたい。今回は沖中忠順氏の前身「とんからりん」記事のレシピを参考に「大和の茶粥」をつくった。沖中様は今号から「京阪七条交差点をめぐって」と題した写真と文を連載して下さい。鉄道、電車にかかわる数々の著書のある方のご投稿で真利に尽きる「とんからりん」になった。

さて、お粥は、お米は塗師屋町のイビさんから福井産コシヒカリ。お茶は奥吉野「嘉兵衛茶舗」提供の天日干し番茶。原材料の良さで、作り手の腕に関係なく「サッパリ」とさわやかなオカイさん



の場所で「酒屋」を再開した。「ほっと」したのかもわかりませんが、おりしもその時私(義郎)は男の大厄の42歳でした。

私にとつて母以上に母の役を引き受けた呉れた祖母でした。その後、商売は拡大、次々立ち上げた新事業も順調に推移しました。私の「大厄」は全て祖母が「命」と引換えに持つて行つて呉れたのでしよう。おおきに!

電話の向うの顔

3頁磯部さんの投稿を読んで、「わしやけど、又は私です」の名前をつけずにかかって来た電話で自分は「何人」判るか考えてみた。随分沢山の顔が浮かぶ。生きてる時間、交際の多さと深さでその数は増える。電話をかける時、僕や・とか私と言つただけで「本人」と判つてくれる人も同じだ。友人に掛けた電話でしゃべり続けているとどうも受け答えが変。「Oxさんやねえ」と確認すると「そうだと返事。Ox」と名を言つと「オヤジですわ」親子で声がソックリ。数Oxさん電話では各乗る。僕も私も私をつけよう!

出来上がり、皆さんからお褒めの声をいただいた。私も後で食べたが前回つきた「茶粥」とは数段おいしいかった。沖中様のレシピに従つたおかげだ。お粥の前に、福井 和先生から「言葉の鎖」との題でお話をお聴きした。先生は、現在は退職されているが、長年の教師生活から生徒と真正面に向かい合う者しか書けない数々の「本」を出版。昨年6月に出版された、「資料室ファイル/中三」もその一冊である。(文芸社刊、1100円税別当店に有り) お話は、冒頭に「皆さん手を上げて「親」という字を空中で書いて下さい」から始まった。手で空に親を書く。親という漢字がどうゆう心から生まれた字か?子供を送り出すとき、或いは遠くに行つた子供を迎える時、立ち木の登つて去り行く子、遠くから近づく子を見る姿が「親」言つ字の心だお話をされた。皆さんもつなずきながらお聴きになっていた。親子の会話、友人との会話、人との人間関係としての「言葉」や「表情」がよい人間関係をつくる鎖だ。朝粥会は良い会だ。



サカタニ友の会は左のサービスをしています。参加をお薦めください。年会費1200円ですがご損はさせません。会員様サービス 入会・更新時と年度内2回・500円買物券を進呈 毎月500円割引券を進呈 この券はファミマ、集西、楽サカタニで使用可。会員様価格での商品配達、試飲会、蔵見学、朝粥会の会員割引有り。2階の一集西楽サカタニでお買物は1000円で1ポイント、配達分は200円で1ポイント進呈。300ポイントで300円のサービスタク券発行。登録会員様はカードが無くても自動的ポイント加算。会員様には、情報紙「とんからりん」や案内をお届け。未成年やご同業の方、都合で入会を断る場合も有

サカタニ友の会員を増やしたい!

編集後記 ○「資料室ファイル」を読んだ。文中の人が、そこには嫌味は見えない。私も書くに「人は」書けない。ガンバツているのだが。無理屈屋でヘンコツ、へそ曲がりな性格は今更変えられない。良い文章は「心」が良くないと書けないからかも知れない。とは言うてもあきらめるにはマダ若い。○「とんからりん」の読者があ。あんまり反応は無いが、続けている間に、たまには読んでくださる人も有るワイイ!と思う。お前が書くだけでは「アカン」と「あちゃん」の音が聞こえた。そのとおりや。○自分が書いて満足してもそれはそれだけ。判つてるけど、書いて呉れる人少ないもん。書言分けして目が覚めた。正夢!

サカタニ友の会は左のサービスをしています。参加をお薦めください。年会費1200円ですがご損はさせません。会員様サービス 入会・更新時と年度内2回・500円買物券を進呈 毎月500円割引券を進呈 この券はファミマ、集西、楽サカタニで使用可。会員様価格での商品配達、試飲会、蔵見学、朝粥会の会員割引有り。2階の一集西楽サカタニでお買物は1000円で1ポイント、配達分は200円で1ポイント進呈。300ポイントで300円のサービスタク券発行。登録会員様はカードが無くても自動的ポイント加算。会員様には、情報紙「とんからりん」や案内をお届け。未成年やご同業の方、都合で入会を断る場合も有